

大道理かわら版 むくろじ

発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL : 0834-88-1830



大道理地区の世帯数と人口	
世帯数	191世帯
人口	403人
男性	181人
女性	222人
(平成27年7月31日現在)	

恒例の交流会賑やかに

八月六日、Y I C キャリアデザイン専門学校との交流会が開かれました。
これは昨年度より開催されているイベントで、今年度は交流館主催で、Y I C キャリアデザイン専門学校との絆をより深めるとともに、生徒さん達に田舎の良さを満喫して戴きたいという思いを込めて開催いたしました。



そうめん流し用の竹、加工中！



交流会開始前の様子です

当日は、Y I C から生徒さん四十名、先生・卒業生二十名の計六十名が参加され、大道理からは、よくする会、ほたる工房、百笑倶楽部の方々など計二十名、総勢八十一名の方が参加されました。今年の交流会の特徴として、生徒さん達にお客さんとして来てもらう形ではなく、一緒に料理の下ごしらえ等をしたたり、会場づくりや焼き肉を焼いたり、後片付けをしたたりといった作業を地域の皆さんと生徒さんの参加者全員で行なったというのが今年の大きな特徴です。

十五時三十分Y I C 生徒さん一行が交流館に着。講堂で簡単なスケジュール等の確認をした後、交流館二階に展示してある、昨年製作された同校生徒さんの作品を熱心に見学されていました。

地域の方と生徒さんが協同で準備

そして定刻。強い日差しも西に傾き、少しだけ涼ぎやすくなった十六時、地域の皆さんが集まってきた。生徒さん達は「僕は力持ちだから三人分働きます」とか、「おにぎりつくるの超楽しみ」とか、そんな声が聞こえてきました。



準備風景

準備開始、最初から事務局の不手際や準備不足でトホホ・・・な状態。しかし、生徒さん達の笑顔と頑張りと地域の皆さんのお蔭様で準備は約1時間も早く無事終了。若さって素晴らしいなと思いました。

いよいよ本番交流会の開始です。開始時間は準備が早く終わった関係で、1時間繰り上げて開宴。今年の生徒さんはお客さんではありません。皆さんがトンダ片手に焼肉を焼いています。とても楽しそうでした。



生徒さんと地域の方とで焼肉を焼いています



そうめん流しの風景

焼肉を食べる人、そうめん流しに興じる人、会場のあちらこちらで感嘆の声が上がっていました。

乱舞する花火と笑顔

そして、時が過ぎ、強い日差しも完全に西に沈み大道理を渡る風もどこか涼しく、辺りには夜の帳がおり、生徒さんお楽しみみの花火大会です。線香花火、打ち上げ花火、様々な花火が交流館の夜を彩り、会場のあちらこちらで笑い声が絶えませんでした。



夜。花火を楽しむ生徒さんたち

楽しい時間という物はあっという間に過ぎるもので、花火大会も終わり、バスで帰宅する生徒さん、大道理に泊まる生徒さんと別れ、楽しかった花火の余韻を残しながら帰宅の途に着き、お泊り組は交流館と夢有民の家に移動。漆黒の闇の中、明るい声だけが何時までも響き渡っていました。

地域づくり専門家「長畑先生」来館

Y I C キャリアデザイン専門学校との交流会の前日長畑実教授(山口大学)が当交流館に、大道理地区の現状と集落視察という事で周南市地域推進課の皆さんといらつしやいました。ちようどお昼前という事もあり交流館で昼食(まんかい弁当)を食べながら、会を進行していきました。

長畑先生が言われるには、「高校生・大学生は高齢者と交流をしたいと考えている。今の若者には、自然体験、社会体験、生活体験が圧倒的に少ない。この体験を提供出来るのが中山間地域の強みである。どの大学も地域との交流の場を求めている。地域からの働きかけを待っている」とのことでした。

学生との連携がもたらす新たな「風」

また、「現在の若者は、田園回帰志向がある。今、大道理に必要なのは、それはここに住む一人一人がその気になる事。大道理の良さ(環境・伝統文化)に気付き誇りを持つことが大切」と、先生は終始おっしゃっていました。

井上館長の持論も、中山間地域の再生は交流人口の増加、それも若い人たちとの交流が大切だということ...

地区内の視察を終え先生をお見送りする時、先生は、「山田事務長、あとは君が大学の学長室のドアを叩くだけですよ」と笑顔で言われました。



(写真左奥) 長畑先生と周南市地域づくり推進課の職員さん、夢求の里交流館館長、事務長

学生はこれからの社会を担う宝です。彼等が素晴らしい未来を築くうえで大道理は優れた教材なのだと思います。また、我々大道理にとっても彼等が持ち込んでくれる新たな風により、自分たちの知らない大道理の可能性に目覚める事も期待できます。そして何よりも、若い人の笑い声が大道理の津々浦々に響き渡ったら素晴らしいのではないのでしょうか。

(文責：山田憲正)

夢求の里交流館日記帳

「言の葉を紡ぐ方の」自宅で...」
六月二十九日(月) 晴れ (中村 宮崎静子さん)

「風待月」...とは旧暦の六月の別名だということを、六月二十九日にご自宅にお邪魔させて頂いた宮崎さんから伺って、恥ずかしながら初めて知りました。

宮崎さんは夢求の里交流館の書道教室に通われていて、同じ書道教室に通われる西村さんから、宮崎さんが俳句をされていることをお聞きして、ご自宅に伺って作品を見せて頂くことになり、作品を見せて頂いたり、お話を伺ったりして来ました。

俳句を始められたきっかけ、魅力についてなど色々伺い、風待月、冬薔薇(ふゆそうび)等、美しい言葉の響きの季語を教わり、とっても胸に響いて、風待月を前に(※注 市のホームページに掲載時は六月三十日でした)、一番初めにこの言葉を載せたくなりました。



ご自分の作品の前の宮崎さん

宮崎さんが書道を始められたきっかけは、俳句を覚えていて、ご自分の作品をしたためるのに綺麗な字で残したいと思われたことだったそうです。俳句に関しては、二十代で出会われた小林一茶の「名月をとつてくれると泣く子かな」という句が心にずつと残っていて、いつか機会があれば俳句を習いたいと思われていて、十二年ほど前、大阪におられた時に念願叶って俳句を始められ、十年前に周南に戻り大道理に来られてからは、今通われている先生との出会いがあつて俳句教室に通われています。

宮崎さんは俳句の先生から、作品をご覧になった方が、うれしくなったり楽しくなったり、情景が目につく俳句をつくりなさいということをや々やられ、作品作りをされています。毎月開かれる教室までに十句ほど作り、そのうち二句を毎日新聞に投句されていて、掲載された作品が載った新聞の切り抜きを俳句帳に大切に保存されていて、見せて頂きました。

「俳句を始めたら、何をしても感動に置き換えるようになり、自然への興味が深まって、自然に生かされている感じがするようになった」という宮崎さんの言葉をお聞きして、俳句が本当に好きで、生活の一部になっていくことが深く伝わりました。



ツクサの花

「休校と なる日の近し 寒の薔薇」
「廃校の 生れ変わり 半夏生」

など、現在「夢求の里交流館」となった旧大道理小学校のことを詠まれた作品や、毎日防長俳壇で「地」に選ばれた

「海越ゆる 力を秘めて 秋の蝶」
という作品では、海を越えて何千キロと旅する「アサギマダラ」に出会われた時の感動を詠まれています。



自筆の短冊と宮崎さん

「俳句は表現したいことを言葉で見つけるまでが大変」だと宮崎さんは仰いますが、俳句でしか使われない言葉を覚えていくことが楽しくて、俳句を始めてから人間性、感受性が豊かになったという言葉も印象に残り、目に映るものをどう感じ取って作品にしているかという部分で、カメラとも何となく相通づるものがあり、切り取った景色や猫たちを十七音の言の葉に変えて、表現してみたくなりました!

宮崎さん、言の葉の世界の魅力をお聞かせください。風流な時間をありがとうございます! (しかしその後ひと月半経った八月半ばに至っても一句も詠めていません...)

夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロンのお知らせ

日時: 9月9日(水) 13時30分~16時
場所: 大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者: 男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考: ご希望の方は、送迎をいたします

サロンの誘い

毎月第4水曜日、サロンを開催しています

日時: 9月23日(水) 10時30分~16時
場所: 大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者: 男女年齢問わず どなたでも歓迎
ご希望の方は、送迎をいたします



救急の119番通報の仕方例

■「もしもの時の救急通報」の電話でのやりとり例についてお伝えします

指令室: 119番消防です

通報者: 救急ですか? 救急ですか?

指令室: 救急です

通報者: 場所はどこですか?

指令室: 大道理〇〇の〇〇宅です。

(予告指令「〇〇署管内緊急入電中」→隊員出動準備)

指令室: どうされましたか?

通報者: おばあちゃんが急に腹痛を訴え、動けなくなりました

指令室: その方の意識はありますか?

通報者: 意識はあります。二階です。

(出動指令「〇〇署管内普通救急急病」→救急車出動)

指令室: 救急車出動しました。詳しいことを教えてください。

その方の年齢、性別は?

通報者: 八十歳 女性です。

指令室: 急に腹痛を起こして動けなくなりましたが、何か病気で掛かりつけの病院はありますか?

通報者: 〇〇病院が掛かりつけです。

指令室: 最後にあなたのお名前と電話番号を教えてください。

通報者: 私は〇〇です。電話番号は〇〇-〇〇〇〇〇〇です。

指令室: わかりました。救急車のサイレンが聞こえましたから手を振って案内してください。



編集後記

「むくろじ」が出来上がり、各自自治会長さん宅へお届けする際、猫好きの私にとつての秘かな楽しみが、猫を飼われている自治会長さん宅への訪問です。運よく猫さんと遭遇し、どうにか仲良くなりたくても、初めて出会う時には名前を呼んでも中々近づくことができなかった所が、二度、三度、と出合いを重ねると少しづつ距離が縮まり、先月号をお届けした時には、名前を呼ぶと「にああ」といいながらすぐ傍まで寄って来て、ついには頭を撫でさせてくれ、とてもうれしくて、せっかくなので帰らないと、もつと撫でていたけれど帰らないと、という葛藤を味わいました。

猫好きでありながら、借家住まいで現在は猫と暮らせず、猫に触れる機会がないと猫欠乏症ともいえる症状に見舞われます。岩合光昭さんの「世界ネコ歩き」というテレビ番組に「はるかかわいいなあ。猫はいいなあ」と癒されますが、やはり生身の猫には敵いません。ここところ二号連続して「むくろじ」作成の舞台裏、私の学生時代の失敗談など、楽監督時代のノムさん(野村克也氏)ばりのボヤキを編集後記で書いてしまい、これはいかに、今回は何か明るい話題をと思いつつ、自分に関しては、あまり景気の悪い話はないなと思案しつつ「むくろじ」作成を進めて、若干煮詰まりかけていた時、件の自治会長さん宅の「トラ吉君」に癒しを求めて会いに行つたところ、残念ながら不在でした。どうしたものかと交流館へと帰りかけた時、思いもよらず救世主が私の前に現れました。午後三時過ぎの畑に草取りをされるご婦人の姿が...! お仕事のお邪魔になるかもしれないけれど、もし話をしても大丈夫だといわれたら、これはぜひお話を伺おう! と声をかけたてみたところ、「ほたる工房」のAさんだと分かり、Aさんも「見たことある顔じゃないか」と言っていました。話は星空の話から、プラネタリウムの話になり、Aさんの楽しいお話にドンドン引き込まれ、八月になつてから特に余裕がなくなくなり、「くしやん」となつていた心が元気になり、「くしやん」ぶりに夜空を見上げてみようという気持ちになりました。その夜は長穂の夜空を見上げました。それから今年になってから取り立ててどこかに行っていないことにも気が付き、久しぶりにカメラを持ってどこか海辺の猫がいる町や心落ち着く場所へ行つてみたい気持ちになりました。季節は夏から秋へ。余裕のない時こそ呼吸を深く、夜空を見上げる気持ちを忘れないでください。(山縣清子)